

市長と鳥大医のトップ面談・民意を無視

鳥大医の「キャンパス」、未解決！

伊木市長・球場敷地は「提供できない」

伊木市長は、鳥大医とのトップ面談(6/9)で、「鳥大医の、湊山球場敷地を利用しない意思」を確認できたと、テレビ中継入りの「面談」という異例な手法を使い市民に情報流布した。

市長が、「面談」のテレビ中継を利用した背景に、市と鳥大医の間にわだか

まりの無いことを世論に印象づけ、「史跡公園計画」の市民との障壁を取り払おうという意図が透ける。

一方、市長は鳥大医から「学生用グラウンド」の相談を受けていることを認め、今後具体的な話しがあれば「球場敷地以外」を検討するとの姿勢だ。

知られていない・市政の真相

よなご市政版



遠藤とおる
米子市議会議員

市長は、鳥大医の球場敷地の「利用の意思なし」の理由と、鳥大医が「要望書」を取り下げた理由を、市民に説明する責任がある！

市は、鳥大医の「要望」に「球場敷地の提供はできない」と一貫して拒み続けてきた。

市長は、この経緯を踏まえた上で、鳥大医側に「球場敷地の利用意思」の確認を求めたことになる、その理由が判然としない。

しかも、「利用の意思無し」と「要望書」の取下げの理由の確認もしていない。

学長・副学長から

市長・市議会議員に、二度の要請

「湊山球場敷地」の提供を求めた鳥大医は、医学部長の更迭という事態に陥る。

一方、市民有志の「医学部を守る会」は、市民ら一七、〇〇〇名を超える署名を集め、市長と議長に提出している。

市民世論は、市の「史跡公園計画」に費やす税金より、大学再編に揺れる鳥大医に「力」を注ぎ、若者の定着と雇用につながる街づくりを切望している。

「将来構想はあるが、病院だけで考えていくわけにはいかない」

市長との面談で、鳥大医の原田病院長は、鳥大医の「将来構想」を伝えたところ。市長に「鳥大医の将来構想」の確認について質すと、「話は聞いたが、中身は確認していない」との姿勢だ。

市民は、鳥大医の「将来構想」に、キャンパス用地に関わる課題が画されていないか、鳥大医の存続に関心を抱いている。

「球場敷地は、提供できない」

「球場敷地以外の敷地なら、希望に応える」。これは、市の将来

にとってベストな選択肢か！

城跡(しろあと)の、内堀の石垣の遺構しか埋まっていない「球場敷地」の活用を、国の史跡指定にして永遠に閉じ込めることとのメリットは、球場敷地内の「民有地」を買上げるために、「国の補助金を併用して、市財政の手出しが少なくて済む」ことに、尽きる話ではなからうか。

「城跡」の地形の継承と保護は、発掘調査の記録保存と民間力で適えられる。

中心市街地に、唯一残された貴重な市民の財産。有効活用で次世代に繋ぐ。